

資産運用ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量削減の
2030年中間目標の設定と具体取り組みについて

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、今般、資産運用における気候変動対応に対する取り組みを一層推進していく観点から、資産運用ポートフォリオにおける温室効果ガス（以下「GHG」）排出量削減について2030年中間目標を設定しました。グローバルに投資を行う機関投資家として、世界的に重視されている指標を参照のうえ、2つの目標を設定し、世界的な重要課題である気候変動問題への対応に貢献してまいります。

<資産運用ポートフォリオにおけるGHG排出量削減の2030年中間目標>

指標	総排出量	▲45%以上削減(2010年比)
	インテンシティ(※1)(投資1単位当たりの排出量)	▲49%以上削減(2020年比)
対象資産	内外上場株式、内外社債、不動産 (いずれもScope1・2(※2))	

(※1)総排出量÷投資残高

(※2)Scopeとは、GHGプロトコルが定める事業者のGHG排出量算定報告基準の概念で、以下を指します。

- ・Scope1：事業者の燃料使用による直接排出量
 - ・Scope2：事業者が購入した電気・熱の使用による間接排出量
 - ・Scope3：Scope1、2以外の事業活動に伴う間接排出量
-
- ・総排出量：着実に全体の排出量を減らしていくために重要な指標
世界各国の科学者で構成される政府間パネル IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change) の目標水準を参照し設定
 - ・インテンシティ：資産残高の増減に左右されず、当社の実質的な削減取り組みを示す指標
機関投資家の脱炭素取り組みで国際的に重要な役割を担う「ネットゼロ・アセットオーナー・アライアンス (以下「NZAOA」)」の目標水準を参照し設定
 - ・対象資産：GHG排出量に係るデータの取得可否、計測手法の確立状況等を踏まえた設定
当社の資産運用ポートフォリオのグローバルな分散投資状況を踏まえ、従来の国内上場株式・社債から拡大

また、排出量削減に向けた具体取り組みとして、従前のおり、さまざまな ESG 投融資手法をバランスよく活用することを基本としつつ、今般、GHG 排出量の計測手法を開発する国際的なイニシアティブである「Partnership for Carbon Accounting Financials（以下「PCAF」）」へ加盟したほか、投融資の面でも、脱炭素ファイナンス枠（5,000 億円）を設定し、社会全体や企業ごとのトランジションやイノベーションといった脱炭素取り組みを後押ししてまいります。

<具体取り組み>

1. PCAF への加盟

PCAF は、資産運用ポートフォリオにおける GHG 排出量の計測・開示手法を標準化することを目的として 2015 年に設立された国際的なイニシアティブです。

PCAF はこれまでに、上場株式・社債等、6 つの資産クラスを対象とする GHG の計測基準を発行し、NZAOA が PCAF の計測基準を参照するなどグローバルに認知されています。2022 年 2 月現在、53 カ国から 222 の金融機関が加盟し、加盟金融機関の預かり資産の合計は 60 兆米ドル（約 6,900 兆円）を超えています。

当社は、PCAF への加盟を通じ、国内外の金融機関とも協働し GHG 排出量の測定ルールの策定議論に関わりながら、PCAF が保有する知見やデータを活用して GHG 排出量の計測・開示手法の高度化を進め、資産運用ポートフォリオにおける GHG 排出量削減の取り組みを進めてまいります。

2. 脱炭素ファイナンス枠の設定

当社はこれまでも、エンゲージメントを通じて企業の脱炭素取り組みを後押ししてきましたが、機関投資家として、投融資の面で更に社会全体・企業毎の脱炭素の取り組みを後押しすべく、脱炭素ファイナンス枠を設定しました。

【脱炭素ファイナンス枠の概要】

金額	5,000 億円
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー関連 ・グリーンボンド ・新技術開発（イノベーション）関連（ファンド投資等） ・トランジション・ファイナンス 等

今般、当ファイナンス枠を活用し、脱炭素ファンドオブファンズ（約 200 億円）、脱炭素ベンチャー投資ファンド（約 100 億円）、再エネファンドオブファンズ（約 300 億円）への投資を決定（※3）しました。

今後とも、広く環境・社会問題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現と運用収益向上の両立を目指してまいります。

(※3)当社はニッセイアセットマネジメント株式会社と投資一任契約を締結し、クレジット投資とオルタナティブ投資の機能を、ニッセイアセットマネジメント株式会社に移管しております。

<https://www.nissay.co.jp/news/2020/pdf/20210304a.pdf>

<脱炭素ファンドオブファンズの概要>

1. 名称	GPEF Climate Change & Sustainability (Impact)
2. 運用者	ニッセイアセットマネジメント株式会社
3. 投資対象	気候変動問題およびサステナビリティ社会への貢献が期待されるプライベートエクイティファンド
4. 特徴	気候変動問題に対応するプライベートエクイティファンドへの投資を通じて、脱炭素社会の実現に資する未公開企業等に投資を行う

<脱炭素ベンチャー投資ファンドの概要>

1. 名称	CP CLIMATE IMPACT FUND, LP (※4)
2. 運用者	SVB CP CLIMATE IMPACT GP, LLC
3. 投資対象	気候変動問題への貢献が期待される未公開企業の株式
4. 特徴	気候変動問題に対応する新技術やサービスを創出するベンチャー企業に投資を行う

(※4)当社は「CP CLIMATE IMPACT FUND, LP」に投資することを目的としたファンド(「SVB Global Climate Change Impact Fund」)を通じて投資を行います。

<再エネファンドオブファンズの概要>

1. 名称	Nissay Core Global Renewables Fund of Funds 1, L.P. (予定)
2. 運用者	ニッセイアセットマネジメント株式会社
3. 投資対象	海外インフラエクイティファンド
4. 特徴	再生可能エネルギー関連事業への投資を通じて、脱炭素社会の実現に貢献

以 上

2021-3245G, 広報部